

# 新学習指導要領の円滑な実施・教育課程の策定に向けて～再確認～

## 社会的背景・学びの問い直し・学力の課題

### ◇ これからの社会

- ・将来の変化を予測することが困難な時代
- ・人工知能（AI）の飛躍的な進化  
「今後10年～20年程度で半数近くの仕事が自動化される可能性が高い。」マイケル・オホーソ  
「子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く。」キャシー・デビッドソン

### ◇ 学ぶことの問い直し

- ・人間が学ぶことの本質的意義の問い直し  
これまでの改訂の中心であった「何を学ぶのか」という指導内容に加えて、「どのように学ぶのか」、「何ができるようになるのか」という視点からの問い直しが必要

### ◇ 学習指導要領の役割

- ・学習指導要領が、学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容、学び方の見通しを示す「学びの地図」  
教職員＋子供自身・家庭地域・企業で活用

### ◇ 学力の定着状況の課題

- ・判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり  
実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすること
- ・主体的に学びに向かい学習したことを活用すること
- ・自己肯定感や社会参画の意識が低いこと

生きて働く～

新しい時代に必要となる資質・能力⇒評価

未知の状況にも対応できる～

学びを人生や社会に活かそうとする～

### i 知識・技能の習得

- ① 「何を理解しているか、何ができるか」  
(個別の知識・技能)

- ・各教科等に関する個別の知識や技能など。・身体的技能や芸術表現のための技能等を含む。
- ・社会の中で生きて働く知識・技能。

### ii 思考力・判断力・表現力等の育成

- ② 「理解していること、できることをどう使うか」(思考力・判断力・表現力等)

- ・主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。

### iii 学びに向かう力・人間性の滋養

- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」(人間性や学びに向かう力等の態度)

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など。
- ・多様性を尊重する態度、持続可能な社会参画に向けた態度、リーダーシップ、思いやりなど人間性に関するもの。

## 何ができるようになるか

形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善に留まるものではなく～

## 何を学ぶのか

## 新しい学習指導要領改訂のポイント

## どのように学ぶか

## 主体的・対話的で深い学び

### ◇ 新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の

- 新設や目標・内容の改善〈学習内容の削減は行わない〉
- 例○グローバル社会に不可欠な英語能力の強化(小学校:3・4年=外国語活動、5・6年=英語の教科化 小・中学校32・33年度実施) ○我が国の伝統文化に関する教育の充実 ○道徳教育の充実を図るため「特別な教科 道徳」⇒小学校:30年度実施、中学校:31年度実施

### ◇ 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善)

- ☆主体的な学び: 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次の学習につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ☆対話的な学び: 子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」ができていないか。
- ☆深い学び: 各教科等で習得した知識や考え方を活用した、「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成したり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」ができていないか。

## 社会に開かれた教育課程

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

## カリキュラム・マネジメント

◇教育課程の在り方を不断に見直すため ◇「社会に開かれた教育課程」の実現のため

教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において、総合的に組織した学校の教育計画である。

- ◇ カリキュラム・マネジメントの3側面 ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点でその目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列していく。 ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成・実施・評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。 ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も活用しながら効果的に組み合わせること。 [別紙参照]